国内の畜産物の需給動向

牛　肉

８年８月の牛肉生産量、前年同月比0.7%減

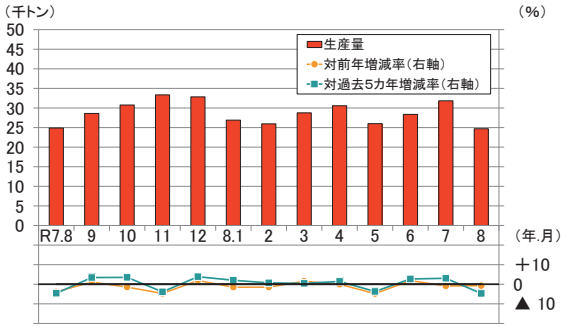
生産量

令和８年８月の牛肉生産量(注１)は、２万4706トン（前年同月比0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（図１）。品種別では、和牛は１万2701トン（同0.8%増）と前年同月をわずかに上回った一方、交雑種は6766トン（同2.2%減）、乳用種は5200トン（同2.4%減）と、ともに前年同月をわずかに下回った。

なお、過去５カ年の８月の平均生産量との比較では、4.7%減とやや下回る結果となった。

（注１）生産量の合計は、その他の牛、子牛を含む。

図１　牛肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

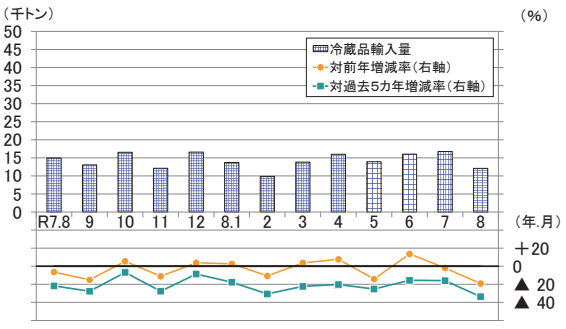
輸入量

８月の輸入量について、現地価格の高止まりや為替相場の影響などがある中、冷蔵品では、主要輸入先である豪州産で入船遅れによる通関ずれが発生したことなどから、１万2085トン（前年同月比19.2%減）と前年同月を大幅に下回った（図２）。冷凍品では、豪州産のうち主に加工用のひき材などに使用されるトリミングの輸入量が増加した一方、米国産などの輸入量が減少したことなどから、２万6553トン（同6.0%減）と前年同月をかなりの程度下回った(図３)。この結果、輸入量の合計(注２)でも、３万8683トン（同10.5%減）と前年同月をかなりの程度下回った。

なお、過去５カ年の８月の平均輸入量との比較では、冷蔵品は33.7%減と大幅に、冷凍品は13.7%減とかなり大きく、いずれも前年同月を下回る結果となった。

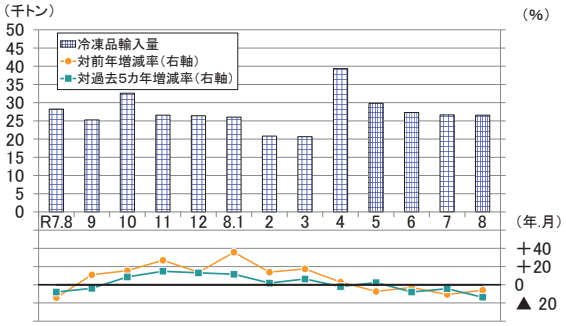
（注２）輸入量の合計は、煮沸肉、ほほ肉、頭肉を含む。

図２　冷蔵牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図３　冷凍牛肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量等

８月の牛肉の家計消費量（全国１人当たり）(注3)は153グラム（前年同月比10.8%減）と前年同月をかなりの程度下回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去５カ年の８月の平均消費量との比較でも、14.6%減とかなり大きく下回る結果となった。

８月の外食産業全体の売上高は、中下旬を中心に台風の影響や局地的大雨の発生による雨天日が多かったことで、月後半を中心に客足が減ったものの、冷たいメニューなどの季節商品や、お盆期間の家族客などの帰省・観光需要、客単価上昇などに支えられ、前年同月比4.9%増と前年同月をやや上回った（一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」）。

このうち、食肉の取り扱いが多いとされる業態として、ハンバーガー店を含むファストフードの洋風は、季節限定商品の好評や、天候不順の中でお盆休み向けのビッグサイズの商品のデリバリー需要が好調であったことから、同6.5%増と前年同月をかなりの程度上回った。また、牛丼店を含むファストフードの和風は、テレビCMを展開した新メニューや冷たい季節メニューが好評であったことや、お盆期間のテイクアウト販促なども奏功したことで、同7.3%増と前年同月をかなりの程度上回った。ファミリーレストランの焼き肉は、お盆期間は前年並みの集客であったが、後半は客足がやや弱く、同1.2%増と前年同月をわずかに上回った。

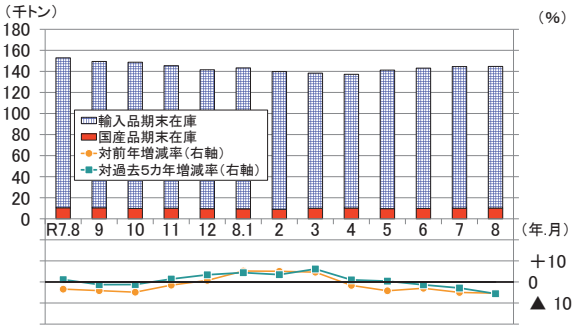
（注３）１世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

８月の推定期末在庫は、14万4699トン（前年同月比5.3%減）と前年同月をやや下回った（図４）。このうち、国産品は１万207トン（同2.6%減）とわずかに、在庫の大部分を占める輸入品は13万4492トン（同5.5%減）とやや、いずれも前年同月を下回った。

推定出回り量は、６万2048トン（同6.7%減）と前年同月をかなりの程度下回った（図５）。このうち、国産品は２万3339トン（同2.3%減）とわずかに、輸入品は３万8708トン（同9.2%減）とかなりの程度、いずれも前年同月を下回った。

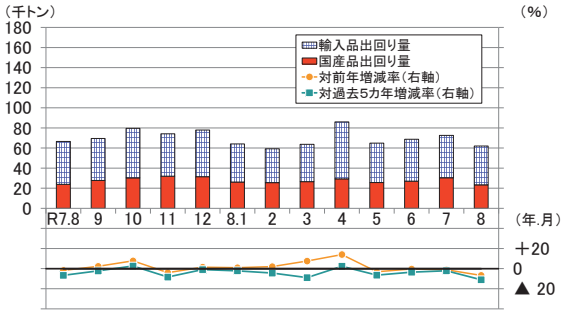
図４　牛肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月および７月の期末在庫については、当該推定値を用いて算出した。

図５　牛肉出回り量の推移

（畜産振興部）



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月から８月の出回り量については、当該推定値を用いて算出した。

豚　肉

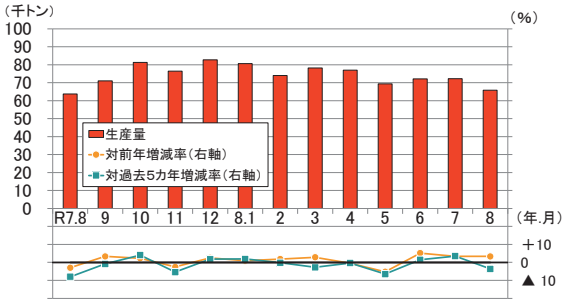
８年８月の豚肉生産量、前年同月比3.3%増

生産量

令和８年８月の豚肉生産量は、６万5791トン（前年同月比3.3%増）と前年同月をやや上回った（図１）。

なお、過去５カ年の８月の平均生産量との比較では、3.6%減とやや下回る結果となった。

図１　豚肉生産量の推移



資料：農林水産省「食肉流通統計」
注：部分肉ベース。

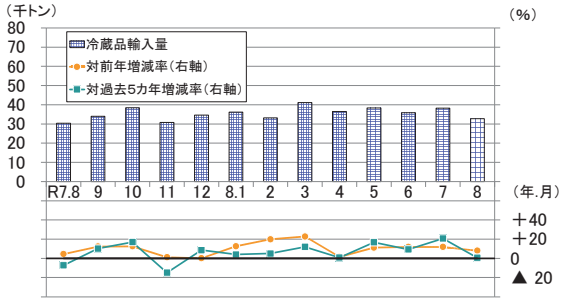
輸入量

８月の輸入量について、冷蔵品は、カナダ産の他、疾病の影響を受けた前年に比べ生産が安定しているメキシコ産が増加し、３万2776トン（前年同月比8.0%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図２）。冷凍品は、アフリカ豚熱発生による輸入一時停止措置(注1)の影響でスペイン産が減少した中、代替としてブラジル産、デンマーク産、米国産、オランダ産などが増加し、４万7341トン（同8.4%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図３）。この結果、輸入量の合計(注2)でも、８万140トン（同8.3%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

なお、過去５カ年の８月の平均輸入量との比較でも、冷蔵品は0.7%増、冷凍品は1.2%増と、ともにわずかに上回る結果となった。

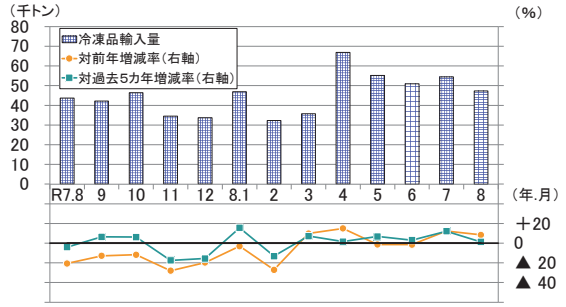
（注１）農林水産省は、令和７年11月28日にスペイン産豚肉等の輸入を一時停止。その後、同年10月29日以前にと殺・加工・梱包まで終了しているものであり、かつ輸出されるまでの間、防疫上安全かつ衛生的に保管および輸送されたものであることをスペイン政府が証明しているものについては、輸入停止措置の対象外とすることを発表。
（注２）輸入量の合計は、くず肉を含む。

図２　冷蔵豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

図３　冷凍豚肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：部分肉ベース。

家計消費量

８月の豚肉の家計消費量（全国１人当たり）(注３)は、638グラム（前年同月比1.7%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去５カ年の８月の平均消費量との比較でも、3.4%増とやや上回る結果となった。

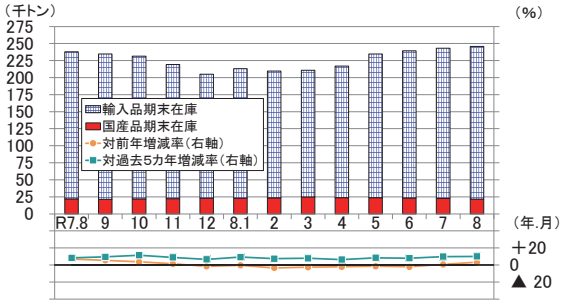
（注３）１世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

推定期末在庫・推定出回り量

８月の推定期末在庫は、24万5659トン（前年同月比3.2%増）と前年同月をやや上回った（図４）。このうち、国産品は２万1723トン（同0.6%減）と前年同月をわずかに下回った一方、在庫の大部分を占める輸入品は22万3936トン（同3.6%増）と前年同月をやや上回った。

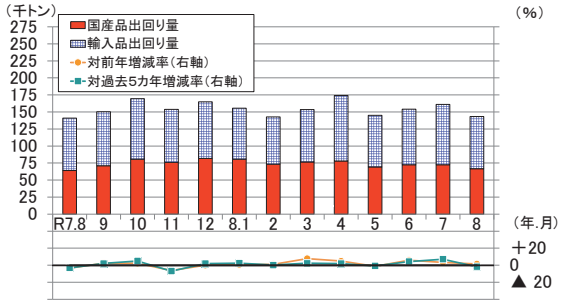
推定出回り量は、14万3175トン（同1.5%増）と前年同月をわずかに上回った（図５）。このうち、国産品は６万6570トン（同3.9%増）と前年同月をやや上回った一方、輸入品は７万6606トン（同0.4%減）と前年同月をわずかに下回る結果となった。

図４　豚肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月および７月の期末在庫については、当該推定値を用いて算出した。

図５　豚肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月から８月の出回り量については、当該推定値を用いて算出した。

（畜産振興部）

鶏　肉

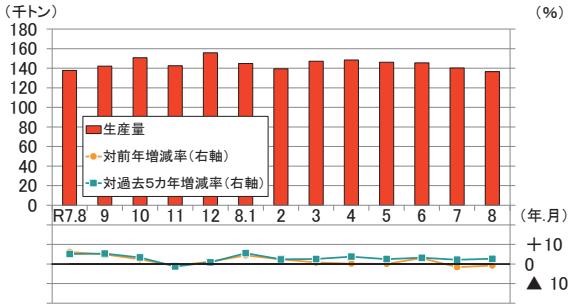
８年８月の鶏肉生産量、前年同月比0.7%減

生産量

令和８年８月の鶏肉生産量は、13万6636トン（前年同月比0.7%減）と前年同月をわずかに下回った（図１）。

なお、過去５カ年の８月の平均生産量との比較では、2.7%増とわずかに上回る結果となった。

図１　鶏肉生産量の推移



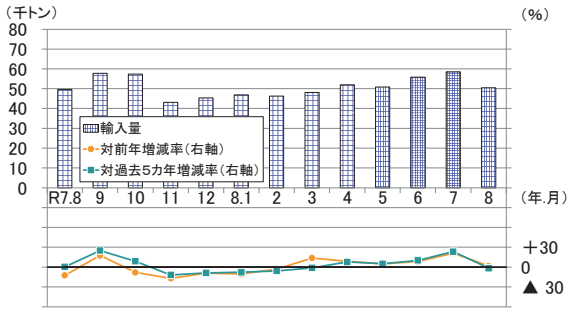
資料：農畜産業振興機構調べ
注１：骨付き肉ベース。
注２：成鶏肉を含む。

輸入量

８月の輸入量は、主要輸入先のブラジルでの生産が堅調だったことなどから、５万437トン（前年同月比1.7%増）と前年同月をわずかに上回った（図２）。

なお、過去５カ年の８月の平均輸入量との比較では、1.7%減とわずかに下回る結果となった。

図２　鶏肉輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
注：鶏肉以外の家きん肉を含まない。

家計消費量

８月の鶏肉の家計消費量（全国１人当たり）(注)は、508グラム（前年同月比0.7%増）と前年同月をわずかに上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去５カ年の８月の平均消費量との比較でも、4.7%増とやや上回る結果となった。

（注）１世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

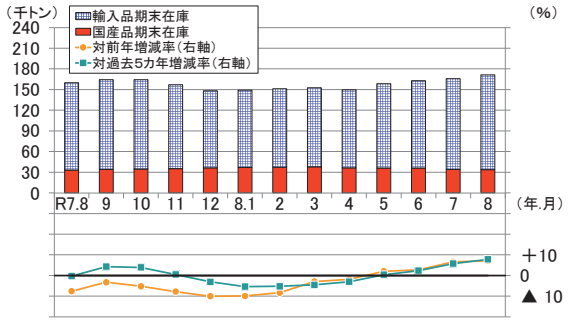
推定期末在庫・推定出回り量

８月の推定期末在庫は、17万1385トン（前年同月比7.2%増）と前年同月をかなりの程度上回った（図３）。このうち、輸入品は13万7769トン（同8.7%増）と前年同月をかなりの程度上回った。

推定出回り量は、18万1347トン（同0.8%減）と前年同月をわずかに下回った（図４）。このうち、国産品は13万7019トン（同0.9%増）と前年同月をわずかに上回った

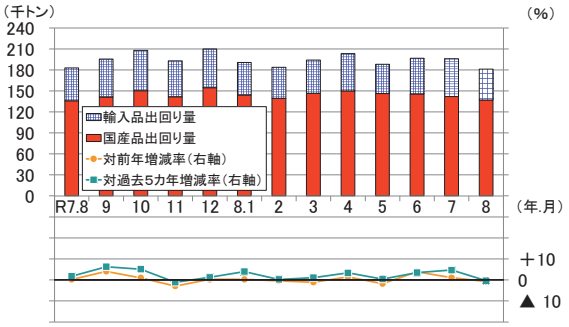
一方、輸入品は４万4328トン（同5.7%減）と前年同月をやや下回った。

図３　鶏肉期末在庫の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月および７月の期末在庫については、当該推定値を用いて算出した。

図４　鶏肉出回り量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
注：令和８年７月および８月の期末在庫調査において一部回答不可能な倉庫があったことから、当該倉庫の在庫量は推定値を採用し、同年６月から８月の出回り量については、当該推定値を用いて算出した。

（畜産振興部）

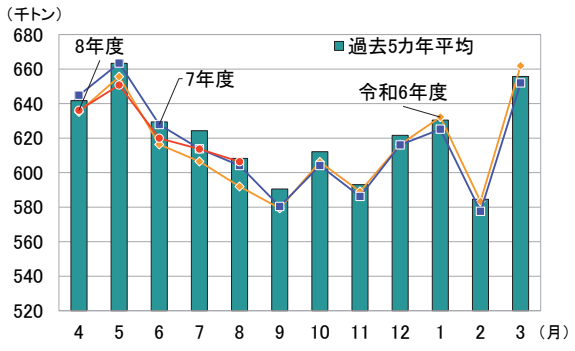
牛乳・乳製品

８年８月の生乳生産量は、11カ月ぶりに前年同月を上回る

都府県の生乳生産量も、12カ月ぶりに前年同月を上回る

令和8年8月の生乳生産量は、60万6321トン（前年同月比0.4%増）と、11カ月ぶりに前年同月を上回った（図1）。地域別では、北海道が36万2981トン（同0.3%増）と２カ月連続で前年同月を上回り、都府県も24万3340トン（同0.5%増）と12カ月ぶりに上回った。

図１　生乳生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

８月の生乳処理量を用途別に見ると、牛乳等向けは30万8999トン（同0.6%減）と、13カ月連続で前年同月を下回った。うち、業務用向けは２万2116トン（同4.0%減）と15カ月連続で前年同月を下回った。

乳製品向けは29万3852トン（同1.5%増）と、牛乳等向けの需要の落ち込みから２カ月連続で前年同月を上回った。これを品目別に見ると、クリーム向けは５万6850トン（同4.0%減）と２カ月ぶりに下回った一方、チーズ向けは３万8260トン（同7.0%増）と12カ月連続で上回った。また、脱脂粉乳・バター等向けは15万1361トン（同3.5%増）となり、２カ月連続で前年同月を上回った（農畜産業振興機構調べ「交付対象事業者別の販売生乳数量等」）。

８月の牛乳生産量、前年同月を13カ月連続で下回る

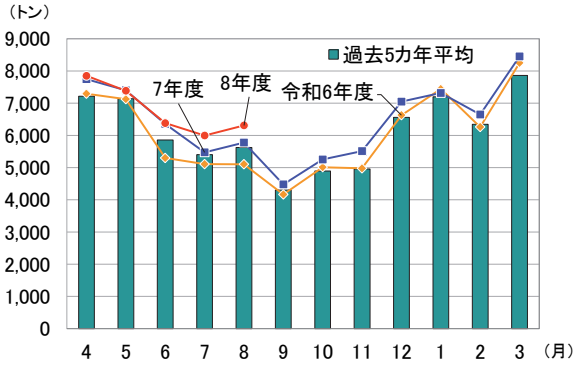
８月の牛乳等生産量を見ると、飲用牛乳等のうち牛乳は、24万2627キロリットル（前年同月比1.2%減）と13カ月連続で前年同月を下回った。成分調整牛乳や加工乳は値上げが影響し減少率が大きく、成分調整牛乳が１万5794キロリットル（同10.0%減）と75カ月連続で前年同月を下回り、加工乳が１万139キロリットル（同10.9%減）と13カ月連続で前年同月を下回った。

一方、はっ酵乳については大容量タイプが堅調に推移しており、９万1268キロリットル（同6.2%増）と３カ月連続で前年同月を上回った。

８月末のバターの在庫量、24カ月連続で上回る

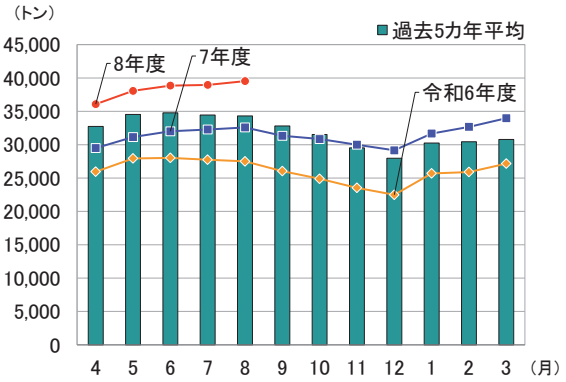
８月のバターの生産量は、脱脂粉乳･バター向け等が増える中、乳成分中の乳脂率が夏場に入っても高い値を維持しており、6310トン（前年同月比9.2%増）と３カ月連続で前年同月を上回った（図２）。在庫量については、需要を上回る供給が続いていると考えられ、８月末は３万9527トン（同21.3%増）と24カ月連続で前年同月を上回った（図３）。推定出回り量は、6147トン（同3.8%減）と３カ月ぶりに前年同月を下回った（農畜産業振興機構調べ）。

図２　バターの生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図３　バターの在庫量の推移

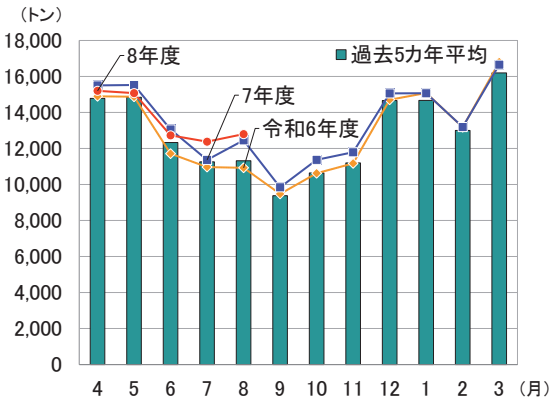


資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

８月末の脱脂粉乳の在庫量、前年同月比25.0%増

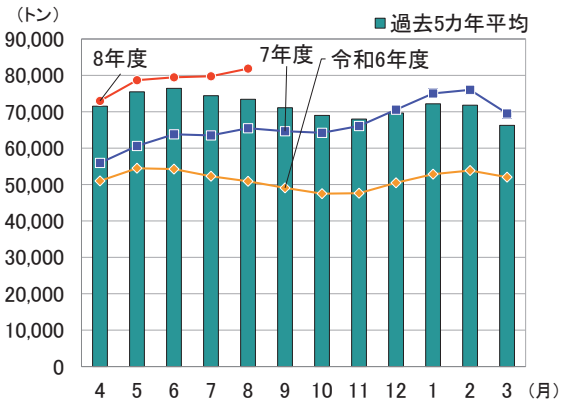
８月の脱脂粉乳の生産量は、１万2798トン（前年同月比2.8%増）と２カ月連続で前年同月を上回っており、需要を上回る供給が続いていることから、在庫量については、８月末は８万1862トン（同25.0%増）と21カ月連続で前年同月を上回った（図４、５）。推定出回り量は、脱脂粉乳の仕向け先として大きいヨーグルトの大容量タイプが堅調であることなどから、１万802トン（同2.1%増）と３カ月連続で前年同月を上回った。（農畜産業振興機構調べ）。

図４　脱脂粉乳の生産量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

図５　脱脂粉乳の在庫量の推移



資料：農林水産省「牛乳乳製品統計」

（酪農乳業部）

鶏　卵

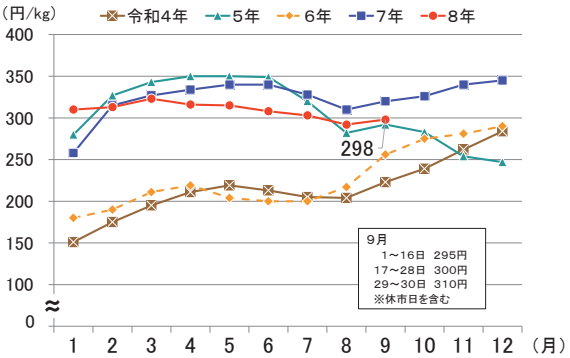
８年９月の鶏卵卸売価格、前年同月比6.9%安

卸売価格

令和８年９月の鶏卵の卸売価格（JA全農たまご（株）の荷受相場の東京Mサイズ基準値）は、１キログラム当たり298円（前年同月差22円安、前年同月比6.9%安）と、前年同月の同価格をかなりの程度下回った（図）。同価格の日ごとの推移を見ると、月初の同295円から17日には同300円、29日には同310円と計２回の上昇があり、月間の上昇幅は同15円となった。なお、過去５カ年の９月の平均卸売価格は261円であり、それと比較すると、14.2%高とかなり大きく上回る結果となった。

供給面について、今夏は前年ほどの厳しい暑さではないものの、夏場の暑さによる産卵への影響やローテーション等から供給はややタイトな状態が続いており、特に大玉サイズの生産量は低位で推移していた。需要面について、業務筋では定期需要が中心ではあるが、学校給食の再開に伴い発注が回復した。外食筋では、月見関連のプロモーションの実施を控え、在庫確保に向けた引き合いが見られた（全国農業協同組合連合会「鶏卵情勢」）。

図　鶏卵の卸売価格の推移



資料：JA全農たまご株式会社「相場情報」
注：消費税を含まない。

家計消費量

８月の鶏卵の家計消費量（全国１人当たり）(注)は、922グラム（前年同月比5.9%増）と前年同月をやや上回った（総務省「家計調査」）。

なお、過去５カ年の８月の平均消費量との比較でも、5.1%増とやや上回る結果となった。

（注）１世帯当たりの数値を当該月の世帯人数で除して算出。

（畜産振興部）

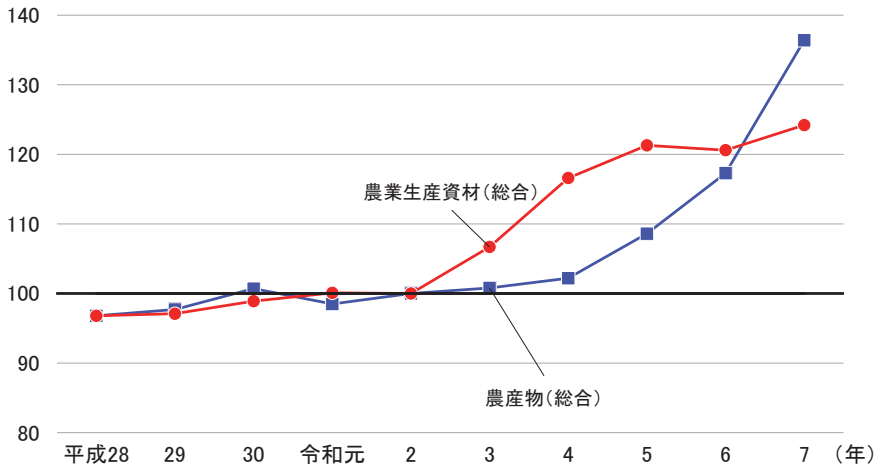
令和７年「農業物価指数」について

農林水産省が令和８年７月31日に公表した「令和７年農業物価指数―令和２年基準―」について、概要を以下の通り報告する。

農業物価指数とは、農業における投入・産出の物価変動を表すもので、農産物価格指数と農業生産資材価格指数を用いて作成されている。農産物価格指数は農家が販売する農産物の生産者価格に関する指数であり、農業生産資材価格指数は農家が購入する農業生産資材価格に関する指数である。なお、これらすべての指数は、基準年の令和２年を100とした数値となっている。

７年の農産物価格指数（総合価格指数（以下「総合」という））(注１)は、米、鶏卵などの価格が上昇したことにより、前年に比べ16.3%上昇の136.4となった（図１）。農業生産資材価格指数（総合）(注２)は、前年に比べて、飼料の価格が低下したものの、畜産用動物、農機具などの価格が上昇したことにより、同3.0%上昇の124.2となった。過去10年間の推移を見ると、いずれも上昇傾向にあり、両指数の差は、５年は12.7ポイント、６年は3.3ポイントと縮小したものの、７年は農産物価格指数（総合）が大幅に上昇した

図１　農産物（総合）および農業生産資材（総合）の年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年＝100とする指数。

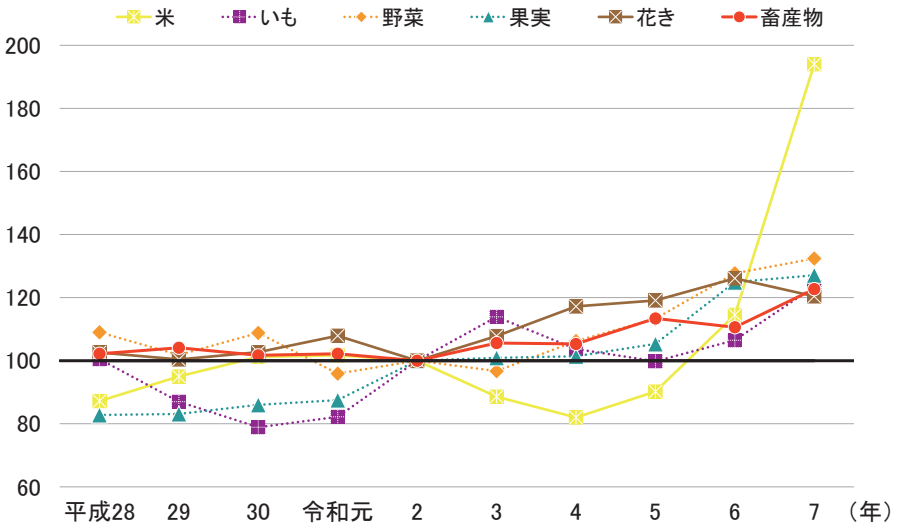
ことから12.2ポイントに拡大し、２年以降初めて農産物価格指数（総合）が農業生産資材価格指数（総合）を上回った。

（注１）農産物価格指数（総合）の算出に用いる類別のウエイトは、全体を100とした場合、米は15.72、いもは2.74、野菜は24.64、果実は9.66、花きは3.52、畜産物は39.05などとなっている。
（注２）農業生産資材価格指数（総合）の算出に用いる類別のウエイトは、全体を100とした場合、畜産用動物は11.31、肥料は7.76、飼料は22.96、光熱動力は8.50、農機具は13.26、賃借料および料金は6.27などとなっている。

【農産物価格指数】畜産物は前年比10.9%上昇

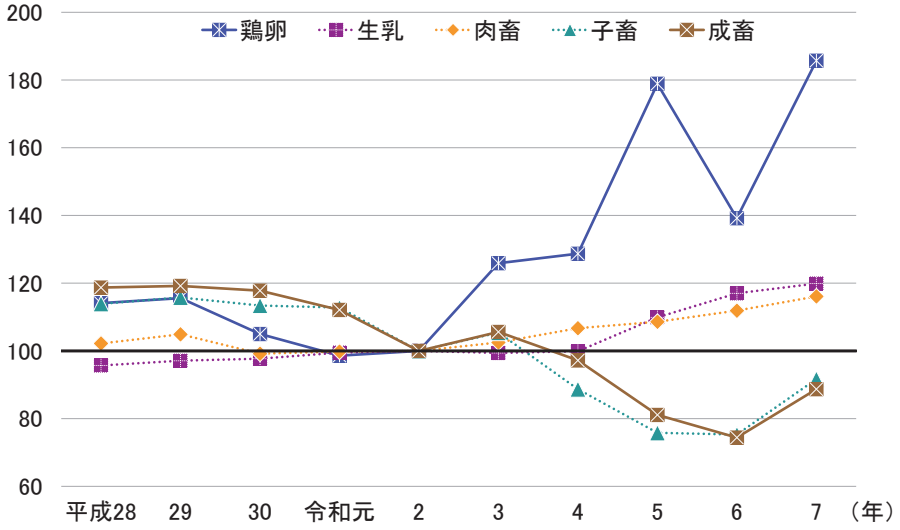
農産物のうち畜産物の価格指数を見ると、鶏卵の価格が年間を通じて上昇したことなどから、前年に比べ10.9%上昇し、122.7となった（図２、３）。

図２　主な農産物の類別・年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年＝100とする指数。

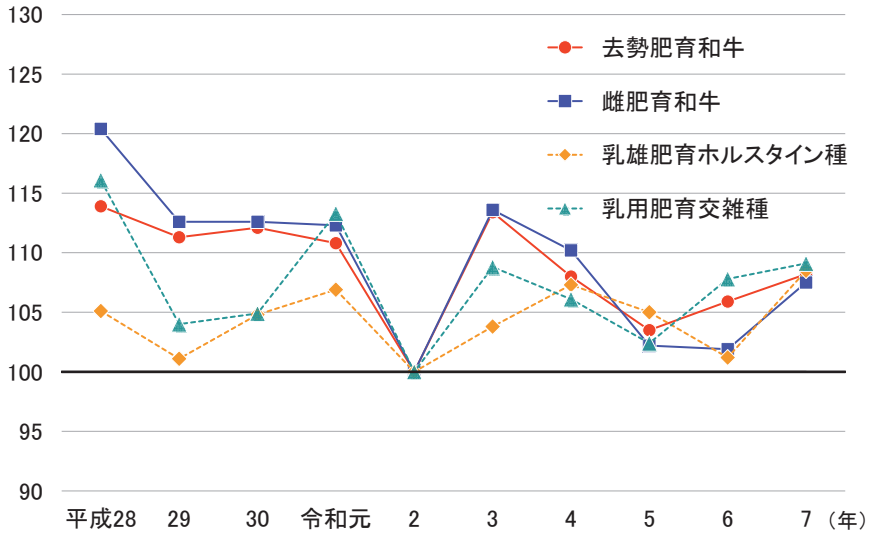
図３　畜産物の品目別・年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年＝100とする指数。

畜産物のうち肉用牛（肉畜）を見ると、年平均で、去勢肥育和牛は前年比2.2%上昇の108.2、雌肥育和牛は同5.5%上昇の107.5、乳雄肥育ホルスタイン種は同7.2%上昇の108.5、乳用肥育交雑種は同1.2%上昇の109.1と、すべての品種で上昇となった（図４）。

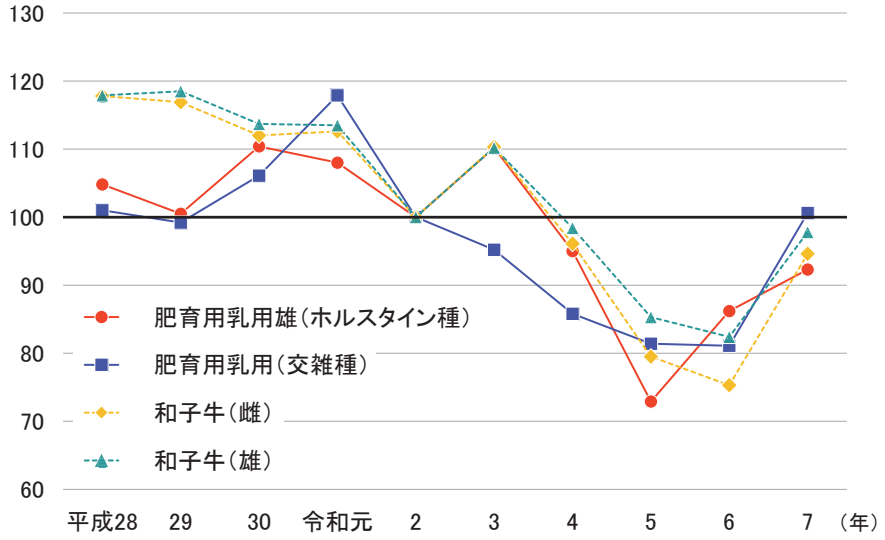
図４　肉用牛（肉畜）の年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年平均＝100とする指数。

肉用子牛（子畜）を見ると、子牛頭数の減少や枝肉価格の上昇などを背景に価格が上昇し、年平均で、肥育用乳用雄（ホルスタイン種）は同7.1%上昇の92.3、和子牛（雌）は同25.6%上昇の94.6、和子牛（雄）は同18.7%上昇の97.8、肥育用乳用（交雑種）は同24.0%上昇の100.6とすべての品種で上昇となった（図５）。

図５　肉用子牛（肉畜）の年次別価格指数の推移



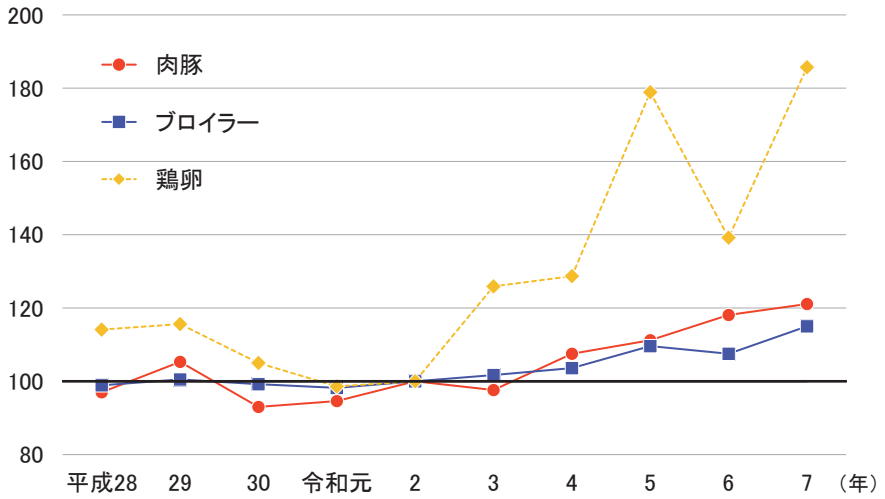
資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年平均＝100とする指数。

肉豚を見ると、引き続き堅調な需要を背景に、年平均で同2.5％上昇の121.1となり、４年連続で上昇した（図６）。

ブロイラーを見ると、需要が堅調であることから、年平均で同7.0％上昇の115.0となった。

鶏卵を見ると、令和６年シーズンの高病原性鳥インフルエンザの発生農場における再導入が徐々に進んだものの、需要が堅調であったことから、例年よりも高い水準となり、７年は、年平均で同33.4％上昇の185.7となった。

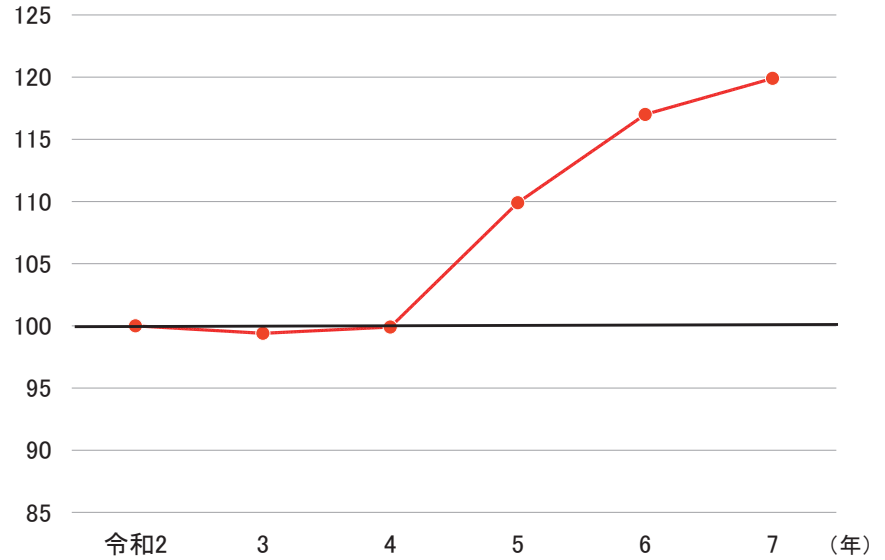
図６　肉豚、ブロイラー、鶏卵の年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年平均＝100とする指数。

生乳は前年から2.9ポイント上昇し、119.9となった。これは、物流コスト等の上昇や令和７年６月に行われた乳製品等向け乳価の値上げ、および８月に行われた飲用等向け乳価の値上げによるものである（図７）。

図７　生乳の年次別価格指数の推移

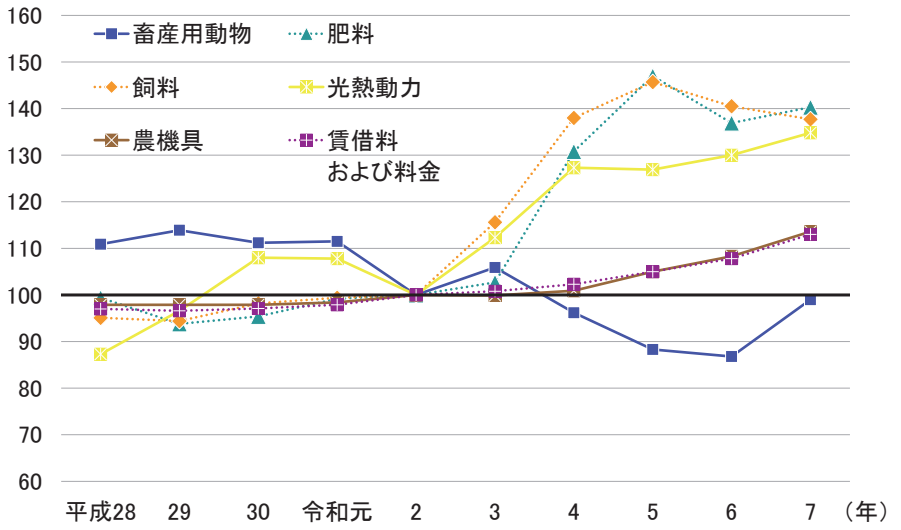


資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年＝100とする指数。

【農業生産資材価格指数】飼料は前年比2.0%低下

農業生産資材のうち畜産用動物の価格指数を見ると、肉用牛価格の上昇などにより、４年ぶりに上昇に転じ、前年に比べ14.1%上昇の99.0となった。(図８)。飼料を見ると、配合飼料価格の低下などにより、同2.0%低下の137.7となり、２年連続の低下となった。

図８　主な農業生産資材の類別・年次別価格指数の推移

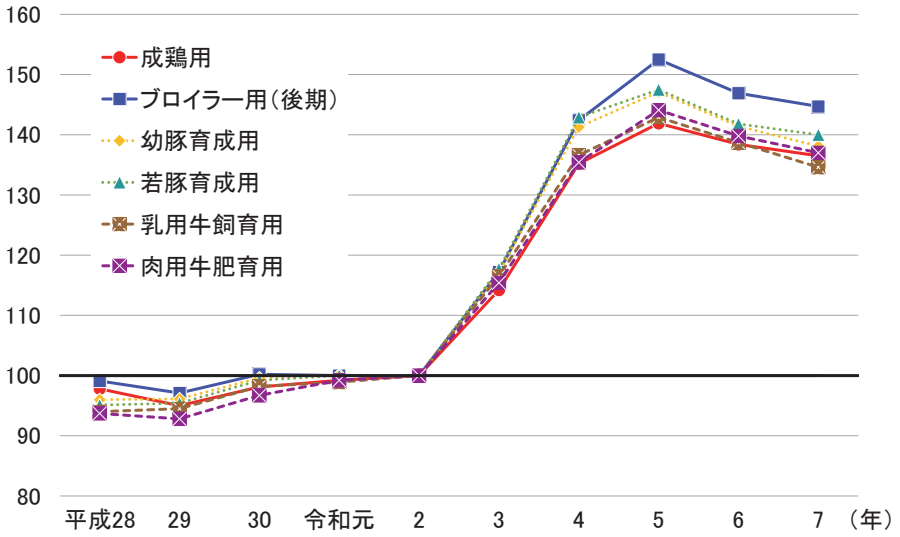


資料：農林水産省「農業物価指数」
注：令和２年＝100とする指数。

飼料のうち配合飼料を見ると、トウモロコシの価格が、主産国である米国や南米の需給動向により下落したことなどから、年平均では、同2.1%低下の138.1となった。

品目別に見ると、年平均では、成鶏用は同1.4%低下の136.5、ブロイラー用（後期）は同1.5%低下の144.7、幼豚育成用は同2.3%低下の138.1、若豚育成用は同1.3%低下の140.0、乳用牛飼育用は同3.0%低下の134.6、肉用牛肥育用は同2.0%低下の137.0となった(図９)。乳用牛飼育用を除き、前年に比べ低下幅は縮小したものの、すべての品目で低下傾向が継続している。

図９　配合飼料の品目別・年次別価格指数の推移



資料：農林水産省「農業物価指数」
　注：令和２年平均＝ 100とする指数。

（畜産振興部、酪農乳業部）